

高校生の学習到達度を測定するための民間の試験等の 開発・普及状況に関する調査

株式会社富士通総研

本調査は、「高校生のための学びの基礎診断」の今後の在り方を検討するため、国内で提供されている民間の測定ツール（現在、「高校生のための学びの基礎診断」の認定を受けているツールを除く。）（以下、「測定ツール」とする。）について、各企業や団体等が公表している情報や文献等を用いて、測定ツールの概要（対象科目、特徴等）を整理するものである。

公開情報調査概要

以下の6つの測定ツールについて、対象科目、特徴等は以下の通りである。

N o.	事業者	ツール名	対象科目	対象者	特徴	学習到達度と学力定着の測定方法
①	NPO法人 eboard	eboard	数学 I	基礎	学習に困難を感じている生徒でも学びやすいように工夫されている。	動画教材での学習後に練習問題を解くことで、学習とその到達度を1サイクルとして学習定着度を測定する。
②	株式会社メディア・ファイブ	Learning Skeleton AI	数学、国語、英語、社会(世界史、日本史、政治経済、倫理社会)、理科(物理、化学、生物、地学)、情報、各種検定	基礎	勉強が苦手な生徒でも学習に抵抗を感じないように、ゲームとして学習できる機能(ネット対戦機能等)がある。	AI活用型ドリル学習で各生徒のレベルにあった問題の出題し、個人別記録をAIで分析し学習到達度を測る。
③	株式会社Libry	Libry	数学、英語、物理、化学、生物、地学	基礎～中級	生徒がより効率的な学習ができるように、問題検索・推薦や苦手分野分析等の機能がある。	單元ごとに生徒の理解に合わせた難易度の問題を出題する機能があり、問題の正答率で学習到達度を測る。
④	一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会	TOEIC® Program IP Test(※)	英語	基礎～上級	学校が希望する日時でいつでもオンラインで生徒が受験することができる。CAT(Computer Adaptive Test)の仕組みを取り入れ、試験時間を1時間に(マークシート方式から半分に短縮)している。	教育課程の学習内容の理解を測定する到達度試験ではなく、日常生活や職場環境で求められる英語コミュニケーション力(ListeningとReading)を測定する熟達度試験である。スコアの等化処理を行い、受験者の能力が変わらなければスコアが一定になるよう、スコアの一貫性を担保している。
⑤	株式会社すらら ネット	すらら	英語・国語・数学 理科・社会(無学年学習)	基礎	アニメーション形式の授業、生徒の理解度に応じた演習、弱点の確認と復習のためのテスト、これら3つの機能を一体的に提供し学び直しを支援している。	生徒は定期的に3つのテスト(小テスト、定期テスト、学力診断テスト)のいずれかを受け、学習到達度を測定する。その後、テスト結果に基づいた各生徒個別のカリキュラムが作成され、学び直し、学力を定着させる。
⑥	ライフイズテック株式会社	Life is Tech! Lesson	情報 I	基礎～中級	実際にプログラミングを体験しながら学ぶことができる。	理解度チェックワークで粘り強さを測り、小テストで知識・技能の到達度を測り、ワークシートで思考・判断・表現を測る。

※「TOEIC® Program IP Test」は、「TOEIC® Listening & Reading IPテスト(オンライン)」を指す。